

# 校長通信

No.6 令和2年5月21日

和歌山市立河北中学校 校長 戸川定昭

和歌山県における緊急事態宣言が解除され、学校再開に向けて取り組んでいます。本日配布しました、和歌山市教育委員会から保護者の皆様への文書のとおり、6月1日(月)から、段階的に授業をスタートさせていきます。

前回の登校日で、臨時休業中における生徒の生活状況を把握するため、生活アンケートを実施しました。一部、本号の裏面に結果を掲載しております。

アンケート結果によると、1年生は比較的、規則正しい生活が送れているようで、1年生の61%は、8時以前に起床しています。2・3年生とも8:00~9:00に起床している割合が最も多いです。気になるのは、2年生で、11.3%が11時以降に起床していると回答しています。

就寝時間において気になるのが、やはり2年生で16%が1時以降に寝ていると回答しています。3年生は、12:00~1:00に就寝しているとの回答が最も多く、33.9%となっています。もう少し、早く床につくようにしてほしいところです。

朝食を食べているかの質問には、全校生徒の大半は食べていると回答していますが、2年生の11.3%は食べていないと回答しています。



学校再開に向け少しずつ、生活のリズムを取り戻していくよう、各ご家庭でもご指導方、よろしく申し上げます。

## 《「自分は大丈夫」思い込み危険》

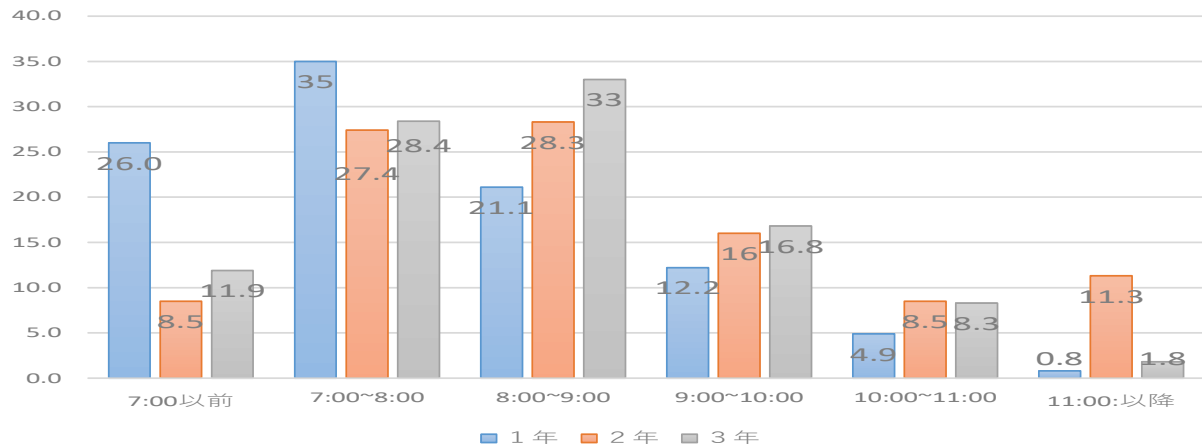
5月16日の読売新聞に、上記のような見出しで記事が掲載されておりました。一部引用します。

風水害の危険が迫り、避難情報が出ても、すぐに避難せずに命を落とす人は少なくない。なぜなのか。「人の心は、異常を感じても『大したことはない』『自分は大丈夫』とある程度までは考える癖や、周囲と異なる行動を取りたがらない傾向がある。」兵庫県立大教授の木村怜欧さんは説明する。災害時に危機を楽観的に捉えたり、不安を感じても周囲に合わせたりして逃げ遅れにつながるという。異常を正常と受け止める心理作用は「正常性バイアス」と呼ばれる。(5月16日 読売新聞より)

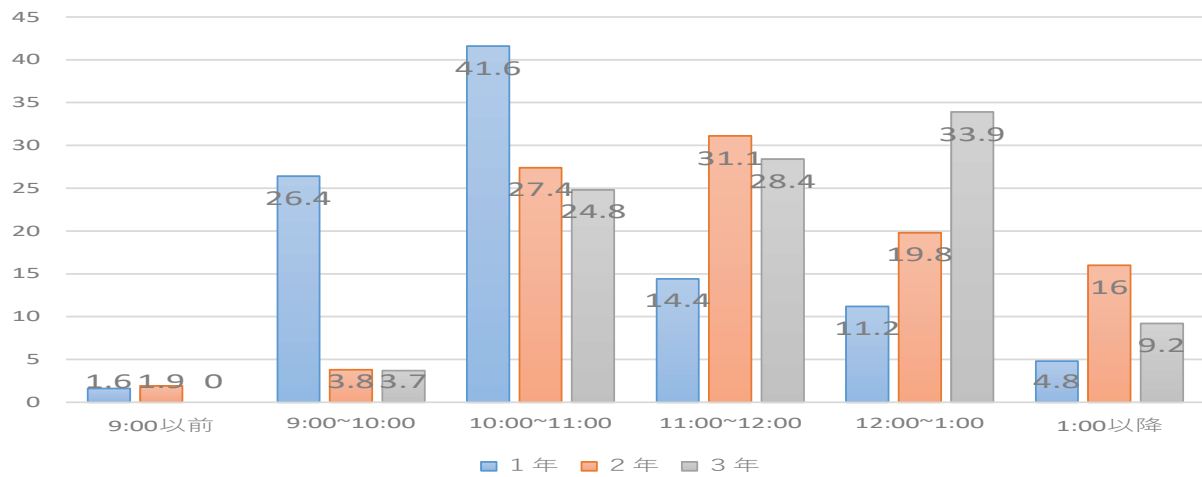
非常事態宣言が解除され、少しずつ生活がもとに戻っていったとき、人と人との接触が増え、再び感染拡大が広がる可能性があります。風邪などの正常でない症状があっても、『大したことはない』『自分は大丈夫』と考えてしまう正常性バイアスという心理作用が人にはあるということを意識することが大切です。学校は、感染拡大防止に取り組みながら、教育活動を取り戻していきます。各ご家庭でも、お子様に、登校前は検温、登校の際はマスクの着用を徹底して指導していただきたいと思います。

また、しばらくすると、梅雨の時期に入っていきます。大雨等、異常気象の際も、正常性バイアスという言葉を使い出し、状況に応じて、早め早めの避難行動をお願いしたいと思います。

### 何時ごろ起きることが多いか？



### 何時ごろ寝ることが多いか？



### 朝食を食べるか？

